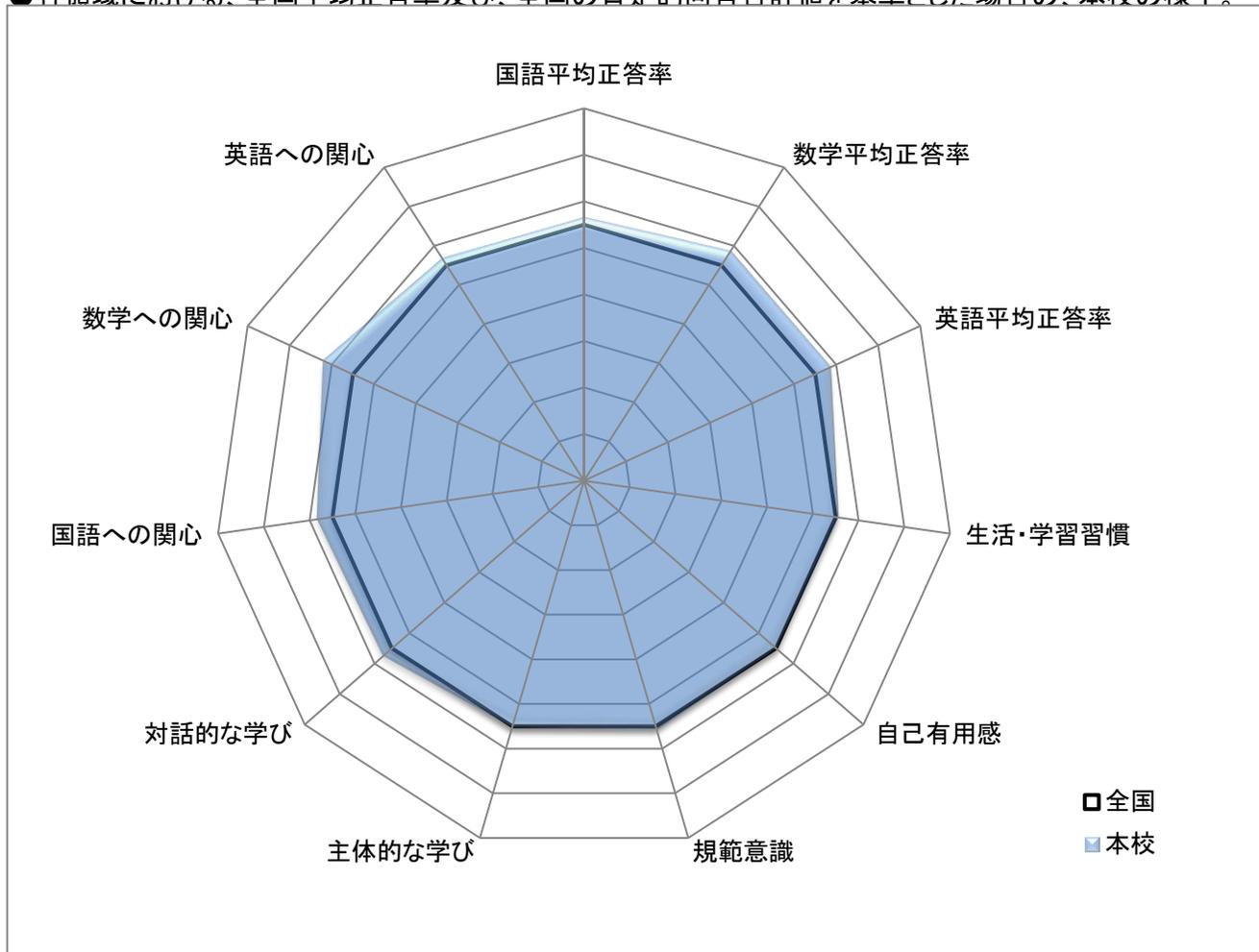


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

家庭学習の習慣が全国と比較して確立している割合が低い。また、将来の夢や目標を持っている生徒が比較的少ない。反面、学校生活においては主体的・肯定的に捉え、生き生きと生活している生徒が多い。話し合いや学級活動が活発に行われていると概ねの生徒が感じている。

国語科では、書くことの力が平均を下回っていた。
 数学への関心はある。全体的に平均は超えているが、数の集合と四則計算の可能性を理解する力に課題がある。また、領域別に考えると、関数に課題がある。
 「英語への関心」はあるが、自分の考えや意見を英語で書くこと、即興で話すことに課題がある。様々なテーマについて自ら考える力とそれを表現できる力、語彙力をつける必要がある。

《授業改善のポイント》

国語科では、言葉で説明したり、補ったりすることに抵抗なく、豊かな語彙で表現できる力を伸ばす必要がある。

言語活動やアクティブラーニングを意識し「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。

数学科では、基本的な計算に留まらず、発展的な文字の計算をさせ、深い学びへとつなげていく。また、関数では、式・グラフ・表と関連付けて理解させる。

英語科では、単に英作文を書かせたり会話させたりするだけでなく、その背景となるもの、テーマについても考えさせるような活動を行う。

自己有用感や進路への希望を見いだせるように、学校全体で系統的に進路指導を行っていく。

《チャートの特徴》

国語科では全体的に都や全国の水準を上回っていたが、部分的にみると改善の余地がある観点があった。書くことの力が平均を下回っており、記述式の問いに対して苦手な傾向が見られる。
 数学科では、都や全国の水準を上回っていた。特に、数学への感心は極めて高い傾向にある。
 英語科では全体的に都や全国の水準を上回っていた。
 主体的な学びの部分は全国平均とほぼ同じであるが、対話的な学びにおいては全国を上回っていた。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の習慣をつけられるよう、学校で案を練り、家庭に協力してもらえるようにする。